

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年3月14日

ウクライナ侵略がロシアのワクチン外交に障害をもたらす

【松崎雑感】

ロシアの新型コロナワクチンが「スプートニク〇〇」と命名されているのは、1957年に人類最初の人工衛星スプートニクを当時のソ連（今のロシア）が打ち上げた「偉業」に基づいたものです。アメリカに原爆で遅れをとったことを「宇宙開発」で取り返したという事と解釈されています。洋の東西を問わず、科学技術の成果を平和でなく、戦争に利用してきた歴史が思いやられます。コロナパンデミックでも、しっかり国際協力ができれば、世界の犠牲者はもっと少なくて済んだらうと思います。

ウクライナ侵略がロシアのワクチン外交に障害をもたらす

Tinari S. Covid-19: **Ukraine conflict calls Russia's vaccine diplomacy into question.** **BMJ**. 2022 Mar 9;376:o626. doi: 10.1136/bmj.o626. PMID: 35264325.

ロシアのウクライナ侵略は、ロシアのスプートニクVワクチン売り込み活動に地政学的困難をもたらした。

ロシアの新型コロナワクチンは、70か国以上で使用認可を受けているが、ウクライナ侵略に対する国際的制裁措置によって、売り込みに大きな障害がもたらされた。

スプートニクVは、ガマレヤ国立疫学微生物学センターが、ロシア直接投資ファンド（RDIF）の資金を受けて開発された。

2月28日、米国財務省はRDIFをロシア制裁対象リストに追加した[1]。欧州委員会をはじめ多くの政府もそれに続いた。

ロシアファンド（RDIF）は、この制裁が新型コロナワクチンの国際的普及に障害をもたらすという声明を発表した。

RDIFは、「西側の巨大製薬会社」が、危機に付け込んで、シェアを拡大する策謀を行っており、ファンドはいかなる政治勢力とも協力したことがなく、ウクライナ問題にも介入せず、国際的な投資活動規範に基づいていると述べた[2]。

スプートニクVは、新型コロナウイルススパイク蛋白を組み込んだ通常の風邪のウイルス（アデノウイルス）をベクターとして製造され、2回接種される。その後スプートニク・ライト、スプートニクM（若年者向け、カザフスタンで使用）が製造されている。

「科学」を越えた論争

スプートニクワクチンのニュースは2020年8月に、プーチン大統領が「安全性と有効性が証明された」新型コロナ向け製剤として承認されたと大々的に発表した。

しかしこの時、第Ⅰ相、Ⅱ相試験結果は公表されておらず、第Ⅲ相トライアルもまだ始まっていなかった[4]。

このワクチンの開発データの開示が不完全で不透明だという批判が常に付きまわっていた。

ランセット誌は、2021年9月にランダムイズ研究ではない第 I , II 相トライアル成績に関する2論文を掲載したが、同じ測定結果が繰り返し使われていることを発見した専門家からの批判が寄せられた[6]。

論文の著者らは、研究が政治的干渉を受けたものではなく、要請があればいつでもデータを開示すると回答したが、現在までそれは実行されていない[7]。

ロシアEBM学会の副代表ヴァシリー・ブラソフ氏は、本誌に、自体はその後ほとんど変わっていないと語った。彼は、スプートニクワクチン開発の方法論に疑問を抱いており、透明性の確保が必要だと言明してきた[8]。

彼は、この間に第III相トライアルが終了したが、「公式のトライアル成績は発表されていない。ロシア国内でこのワクチンの安全性に関する調査も行われていない」と語った。

ブラソフ氏は、「コロナパンデミックについて科学の枠外での議論ばかりがはびこってきた」と、政治と地政学的因子が公衆の健康確保を損なってきたと指摘した。「このパンデミックに関する科学的データの無知、アクセスの遅れ、そして極めて主観的な方針決定がこの事態を招いたことは疑いない」と。

この先どうなるか不明

2022年2月にアルゼンチン保健省はスプートニクワクチンの国内での製造を条件付きで承認した。

ほかの国でも、同様のテクノロジー導入が進んでいる。商的契約内容は開示されていないが、アルゼンチンに続いて、多くの南アメリカ諸国でスプートニクワクチン製造が始まった[9]。

アルゼンチン保健省は本誌に、国内にはスプートニクワクチンのストックが十分あり、他の種類のワクチン接種も進んでいるから、国際紛争があってもワクチン接種推進に問題は起きていないと述べた。

アルゼンチンでは79%の国民が接種を完了している。ロイターの報道によれば、近いうちにスプートニクワクチンの製造を開始する予定だったインドの下請け会社の多くが、ウクライナ紛争がロシアワクチンの製造流通に悪影響をもたらすかどうかについて、ノーコメントと回答している[10]。

欧州医薬品庁は、昨年スプートニクワクチンの逐次審査を開始した。WHOは今月、ロシアに対する立ち入り検査を予定している[11]。

WHOは、スプートニクワクチンを緊急使用承認薬品リストに追加していない。このリストに載った薬剤は低コストで、低所得国に配布することができる。

しかしウクライナ紛争中は、いかなる立ち入り検査も行われまいだろう。

欧州医薬品庁は、「スプートニクワクチンの逐次審査は継続されるが、現在進行中の審査はない。この先の予定も不明だ」としている。

現在の国際紛争の状況では、ロシアワクチンの承認と接種が進むかどうか全く不明である。

ポリティコ誌はRDIFが、ウクライナに平和が取り戻されるよう明言したと報道した[12]。しかし本誌は、この声明の存在を確認できていない。